

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃ にんぎょうげきだんきょうげい 有限会社 人形劇団京芸	団体ウェブサイトURL http://www.kyougei.com/
代表者職・氏名	取締役 清水正年	
制作団体所在地	〒 611-0022 最寄り駅(バス停) 白川峠(バス停) 京都府宇治市白川鍋倉山35-20	
電話番号	0774-21-4080	
ふりがな 公演団体名	にんぎょうげきだんきょうげい 人形劇団京芸	団体ウェブサイトURL http://www.kyougei.com/
代表者職・氏名	取締役 清水正年	
公演団体所在地	〒 611-0022 最寄り駅(バス停) 白川峠(バス停) 京都府宇治市白川鍋倉山35-20	
制作団体 設立年月	1949年 10月	
制作団体組織	役職員 【取締役】清水正年 【運営委員長】坂下智宏 【事務局長】小林洋介 【会計監査】白米美帆/藤田博子	団体構成員及び加入条件等 (1) 団体構成員:演技部13名/制作部2名/総務部2名/囑託劇団員2名/囑託2名 計21名 (2) 加入条件等:劇団の研究所を卒業した者、または、卒業と同等の能力を有すると認められた者
事務体制 (専任担当の有無)	他の事業と兼任の事務担当者置く	本事業担当者名 菅沼輝之
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名 小林洋介


<p>制作団体沿革</p>	<p>昭和24年10月に劇団京都芸術劇場として創立される。 昭和35年に新劇部門と人形劇部門とが分離・独立し、人形劇部門が人形劇団京芸として活動を始める。 昭和42年に法人格を取得、有限会社人形劇団京芸となる。 昭和47年に宇治市白川に稽古場を開設して活動の拠点とし、以後、全国の小学校、幼稚園・保育園、行政、鑑賞団体等で人形劇の上演を実施している。 平成9年の『モモ』により、人形劇団として始めて文化庁芸術祭優秀賞を受賞する。 平成27年には『おもしろげきじょう』が厚生労働省社会保障審議会児童福祉文化賞特別推薦作品となり、また、国際児童青少年舞台芸術協会(ASSITEJ)韓国支部の第23回国際夏フェスティバル招待作品となる。 令和3年には韓国ウニマ主催による動画コンクールにおいて映像作品がBest賞に選出される。</p>				
<p>学校等における公演実績</p>	<p>創立当初(昭和24年)より学校公演実績あり。</p> <p>令和3年度(2021年4月1日～2022年3月31日)は</p> <p>『とどろヶ淵のメッケ』 13ステージ 『火よう日のごちそうはひきがえる』 24ステージ 『まんてんげきじょう』 2ステージ 『うみぼうやとうみぼうず』 1ステージ</p> <p>の、計40ステージを実施。</p>				
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>京都府立豊学校/京都府立盲学校小学部/京都府立舞鶴養護学校/大阪市生野区特別支援学校/八尾市立特別支援学校/みくまの支援学校/滋賀県立草津養護学校小学部/綾部市特別支援教育研究会等での公演実績あり。</p> <p>また、平成26年度本事業において三重県立豊学校、27年度は兵庫県立姫路しらさぎ特別支援学校/神戸聴覚特別支援学校、平成28年度は広島県立庄原特別支援学校、平成29年度は長崎県立鶴南特別支援学校、令和元年度は熊本県立天草支援学校で実施。</p>				
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>			
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/I0LzxEXQcFA</p>			
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td>ID:</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PW:</td> <td></td> </tr> </table>	ID:		PW:
ID:					
PW:					

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 人形劇団京芸 】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	-		
企画名	人形劇団京芸『とどろヶ淵のメッケ』			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	『とどろヶ淵のメッケ』 【 原 作 】富安陽子『とどろヶ淵のメッケ』(校成出版社刊) 【 脚色・演出 】北村直樹(人形芝居ひつじのカンパニー) 【 美 術 】清水正年 【 音 楽 】ノヤママナコ(マナコ・プロジェクト) 【 照 明 】尾鷲武志 【 人形製作 】人形劇団京芸 【舞台装置製作】吉田貴志(ヨシダ人形劇)・人形劇団京芸 【 制 作 】山本いずみ			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	人形劇の上演
	該当事項がある場合	権利者名 原作使用料：富安陽子 原作イラスト：広瀬弦	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済
演目概要	【あらすじ】 みくまり岳の上流にある竜神沼では、毎夏、山に住むカッパたちが集まっての大相撲大会が開かれています。山にある淵の一つ、とどろヶ淵に住むカッパのメッケは、今年もひとりで留守番をさせられます。しかし、他のカッパたちが出発して3日後に、とどろヶ淵に流れ込んでいく水の流れが止まってしまいます。カッパにとって水は命。メッケは流れが止まった原因を探るために旅立ちます。途中、好奇心旺盛なソッカ、力持ちのヨッシャと出会い、ともに竜神沼を目指します。一行の前に立ちちはだかる正体の分からないウロウロから逃げたり、迷子になったイノシシの子供を見つけたり、カッパたちに伝わる巻物の謎を解き明かしたりしながらたどり着いた竜神沼で、水の消えた原因を知る大亀に出会います。大亀に告げられた水を取り戻す方法は何か、そして、興味がいつしか仲間を助ける気持ちに代わったメッケが取った行動とは。カッパたちと大冒険をしながら自分にとって、友達にとって、世界にとって大事なものを見つけにいきましょう。 【みどころ・セールスポイント】 『とどろヶ淵のメッケ』は沼や淵など水の中が舞台の人形劇です。照明や音響そして舞台装置で水の表情が一刻一刻変化する中、登場人物たちが自由に泳ぎ回り行動する様子は観る人の想像力を刺激します。また、見つけるのが得意なメッケ、調べるのが好きなソッカ、そして力自慢のヨッシャという、年齢も体格も興味も違う3人が時にはぶつかり時には協力しながら水が無くなった謎を探し、仲間を助けるために冒険する姿は多様なロールモデルを児童・生徒に提示し、他者に共感し応援する体験となるとともに自己実現の礎となります。			
演目選択理由	演劇は文学・音楽・美術・舞踊が一体となって世界を作り上げる芸術です。中でも、人形劇は人形によって観る人の想像力を積極的に刺激し、幼児から大人まで、幅広い年齢層の心を動かします。 『とどろヶ淵のメッケ』は大きな人形、象徴的な舞台美術、そして登場人物一人一人の内面を大事にして表現する演出が結びつき、異年齢の集団が一緒に見られる質の高い舞台となっています。知らないところへ出かけていき新しい体験を仲間とする物語は、児童・生徒を刺激するばかりでなく、一緒に目標を達成することの大切さを提示し、それに向けてのコミュニケーション能力を育てます。 また、カッパという想像上の生き物、それが人形で表現されることで、登場人物に自分自身や気持ちを仮託して観劇する児童・生徒の想像力はより開放されます。 さらに、多様な芸術の要素を含んだ人形劇を観ることは、様々な文化に触れる機会となるので、後後まで続く文化芸術のへ関心を持つことができます。水をテーマにした人形劇ですから、環境問題についての啓発にもつながります。			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	児童・生徒は子どものカッパ役で人形を遣って公演冒頭に参加します。 実施校のそれぞれがカッパたちの暮らす淵になり、児童・生徒は大相撲大会を楽しみにするカッパとして出演します。公演で使用する人形は事前に自分たちで作成したものです。相撲の基本的な動作であるしこふみやつっぱりなどを披露し、踊りながら竜神沼の相撲大会へと向かいます。 上演後には人形でのお見送り体験や、出演した人形とのふれあい、舞台見学など、実施校の希望を聞きながらの人形劇体験を実施しています。			
出演者	小島祥子/清水正年/菅沼輝之/白米美帆/藤田博子/西尾直樹/割地泰淳			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者： 7 名 スタッフ： 1 名 合計： 8 名	運搬	積載量： 2 t 車 長： 6.5 m 台 数： 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無		前日仕込み所要時間		-		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出			
	8時	8時～11時30分		13時30分～14時50分	なし	15時30分～18時	18時			
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。										
本公演 実施可能日数目安 <small>※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</small>	6月	7月	8月	9月	10月					
	10日	0日	0日	0日	19日					
	11月	12月	1月	計		29日				
	0日	0日	0日							
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。										
児童・生徒の 参加可能人数	本公演				共演人数目安	8人				
					鑑賞人数目安	450人				
公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出や がわかる写真) ※採択決定後、採 択団体へ図面等詳					(図1) 体育館フロアに舞台を設置して上演している状態。 舞台に必要な面積は、間口14m×奥行8m×高さ4m。					
					(図2) 児童がワークショップで作った人形で 上演参加している状態。					

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	30名(1クラス～1学年)
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>本公演で児童は自分で作ったカッパの人形を遣って出演をします。そのためのワークショップを実施します。 前半、後半と時間を区切り、前半では心と体を解放する演劇的なワークショップを実施したのち、カッパの人形を新聞紙などの手に入りやすい材料で作ります。 休憩を挟み、後半では作成したカッパの人形を遣って人形劇体験を実施します。 相撲が大好きなカッパたちなので、相撲の動き(しこふみ・つっぱり)などをしたり、自由に体育館を泳ぎ回ったりします。</p>  <p>(図) 児童が自ら作ったカッパ人形の一部。新聞紙とビニールのゴミ袋で構成されている。児童たちが自由に作成することが可能です。</p>		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>人形劇の面白さは自分ではなく自分が遣うモノが動きや気持ちを表現してそれらを観客に届けることにあります。人形劇を体験することは自分とは違う他者がどのような気持ちであるか考え、そしてそれを表現することに適しています。人形を作ることは、個人の自由な想像力を駆使する機会となります。また、集団の中で人形を遣うことで、息遣いや動きなど、非言語の身体的コミュニケーション能力を養うきっかけになります。</p>		
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p>特別支援学校等でも特に変更なく実施できます。 個々の特別支援学校の持つ期待や要求に応えられるよう、ワークショップの前段階から密に連絡を取ります。より良いワークショップと本公演が実施できるよう、今までの特別支援学校での実績を活かします。</p>		